学力向上のための重点プラン【小学校】　新宿区立四谷小学校

■　学校の共通目標　【ＨＰ公開用・様式１】

授業作り	重点	「主体的に追究する問い」、「見方・考え方を生かしたり働かせたりする学習活動」、「学びを確かにする評価」の３点の充実を図ることで授業改善を進める。
環境作り		各教科等の特質に応じて児童がＩＣＴを積極的に活用する機会を設定し、情報活用能力を育む。

■　学年の取組について

学年	学習状況の分析 （各種調査から）	学校が取り組む目標 （日常の授業の様子から）	目標達成のための取組
1学年		・とめ、はね、はらいや書き順を意識して正しい文字を書くことができるようにする必要がある。 ・数の読み方や書き方、数の構成についての理解を深める必要がある。	① ひらがなプリントの活用 ② デジタルドリルの活用 ③ 具体物や半具体物の活用
2学年		・漢字や言語理解への定着を図る必要がある。 ・自分の意見や考えを表現する力の育成が必要である。 ・数の意味や表し方についての理解を深める必要がある。	① デジタルドリルの活用 ② 漢字ドリルの活用 ③ 自分の考えや意見を文章化する機会を増やす、スピーチの活用 ④ 具体物の活用
3学年	知識・理解については、計算の技能は高い児童が多い一方で、漢字を字画を正しく書く力には課題がみられる。考えたり、表現したりする力については進んで発表できる児童が多い一方で、適切な話し言葉や式、文章で書いて表現する力には課題が見られる。	・書く能力、特に、内容のまとまりで段落を作ったり、目的に合わせて文章構成を考えたりすることに課題がある。 ・習った漢字や言葉を、学習や日常生活の中で使ったり、ていねいに書いたりすることについて課題がみられる。 ・自分の考えを図や式を使って表現する力について、個人差がやや大きく見られる。 ・かけ算の定着が不十分であったり、九九の計算が遅かったりする児童が多い。 ・一斉の指示、指導の理解に個人差が大きく見られる。 ・意見をもっても伝えられなかったり、伝え方が分からなかったりする様子が散見される。	① モジュールでの学習やタブレット等を活用した毎日の家庭学習を通して、基礎基本の定着を図る。 ② 書くことでの例文の提示を通して、目的に応じた書き方や言い回しを確認し、表現方法を身に付けられるようにする。 ③ 大型ディスプレイを活用し、提示の仕方や意見を共有する方法を工夫して、分かりやすい授業の実現に努める。 ④ 児童同士が授業の様子を見合う時間を設定し、自分の考えをまとめたり、伝え合ったりする。 ⑤ 家庭学習で「東京ベーシック・ドリル」やデジタルドリルを繰り返すことで知識の定着を図る。
4学年	思考・判断・表現では、読み取る技能は身に付いてきているが、考えたり、説明したり、表現したりする力については、課題がみられる。自分の考えを進んで発表できる児童が多いが、つながりを意識したりした文章構成や内容の中心を明確にして書くこと、図や式を使った考えを文章で表現する力を付ける必要がある。	・文章の構成を理解し、それに合わせて自分の意見や考えを表現する力の育成が必要である。 ・漢字や言語の理解はあるが、説明文などの読解力を付ける必要がある。 ・自分の考えを図や式を使って表現する力について、個人差がやや大きく見られる。 ・時刻の問題や図形の作図の特徴を理解して、正確に作図できる力が必要。	① 家庭学習のドリルパークや「東京ベーシックドリル」の活用 ② 自分の考えや意見を文章化する機会を増やす。スピーチの活用 ③ モジュールの時間の学習用した毎日の家庭学習を通して、基礎基本の定着を図る。 ④ 書き方の例示や要点の書き方などを身に付けられるようにする。

5学年	国語では概ね区や全国平均より達成率が高い。話す聞く力をさらに伸ばす必要がある。 算数でも概ね区や全国平均より達成率が高い。数と計算の領域に関する力をさらに伸ばす必要がある。	・話す力を伸ばすために、「結論→理由」など話型を提示し、児童が話しやすいようにする。 ・スピーチや報告など多様な話す・聞く活動を国語科以外でも取り入れていく。 ・数の仕組みや基本的な計算の力を伸ばしていく。	① 話す機会を増やす。スピーチ、グループ活動の報告など ② モジュールの時間やタブレットを活用した基礎基本の定着。 ③ 東京ベーシックドリルの活用。
6学年	学力調査結果から、国語では叙述をもとに自分の考えを表現することが苦手な児童が多くいる。算数では既習事項を生かして問題解決に取り組み、自分の考えを表現できる児童が多い一方で、図形の理解が不十分であった。	・自分の意見や考えを表現する力の育成、それに沿った学習活動が必要である。 ・友達の考えに反応するなどし、話しやすい雰囲気を創っていく。 ・文章問題や図形の構成・見方・考え方を広げていくことが必要である。 ・協働的な学習によって問題解決を図ることが必要である。	① モジュールの時間やタブレットを活用した基礎基本の定着。 ② 定期的に短作文の宿題に取り組み、自分の考えや経験を文章に表す活動を増やす。 ③ 授業内のペア学習・小グループ学習の設定 ④ 学習チームを形成し、意見や考えを共有しながら課題解決を図っていく活動を設定する。
特別支援		・学習面や行動面で特別な教育的支援を要する児童に対して、引き続き適切な手立てを講じる必要がある。	①まなびの教室の教員との緊密な連携 ②「学校生活支援シート」の活用による詳細な実態把握